



学校法人 緑ヶ岡学園
釧路市緑ヶ岡1丁目10番42号 www.midorigaoka.ac.jp

- 釧路短期大学 ● 釧路短期大学附属幼稚園
- 釧路短期大学附属図書館 ● 釧路短期大学生涯教育センター
- 武修館高等学校 ● 武修館中学校 ● 専門学校釧路ケアカレッジ



理事長よりご挨拶

学校法人緑ヶ岡学園
理事長 中 島 太 郎

緑ヶ岡学園理事長の中島です。この6月1日付で理事長に就任いたしました。学園発展のため全力を尽くし、また皆様のご期待に添えますよう努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、緑ヶ岡学園は、昭和39年1月に学校法人と短期大学、高等学校の設立認可を受け、現在は、釧路短期大学、介護福祉士を養成するための専門学校釧路ケアカレッジ、武修館高等学校、武修館中学校、短期大学附属幼稚園の5つの学校、幼稚園として、542名の学生・生徒と92名の園児が勉学等に励んでおります。

また、創立50周年を迎えた昨年は、多くの皆様のご出席をいただき創立50周年記念式典とノーベル化学賞を受賞した北大名誉教授・鈴木章氏の記念講演会を開催したところであります。

本学園は、創立以来、半世紀にわたる幾多の試練を乗り越えながら、「愛と奉仕」「人を愛し人に尽くす」の建学の精神のもと、釧路地域唯一の私学として、教育・研究等を通じての人間形成と即戦力として地域社会に貢献できる学生・生徒の育成を目指し、地域に密着した教育を実践してまいりました。お陰をもちまして、徐々にではありますが学園の評価も高まり、地域での存在感も定着してきたと感じております。

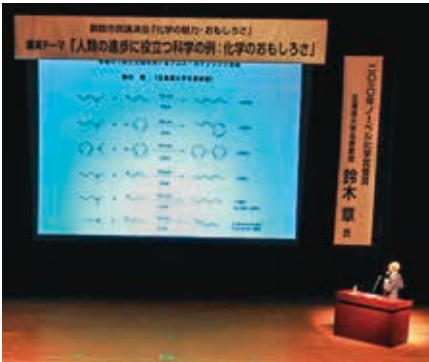
現在、短期大学では学生が自由な発想で学習発表、課外学習を深めていくことができる可能性を秘めたラーニング・コモンズの推進を、また昨年度からは生涯学習としてのリメディアル教育も開始しております。高等学校・中学校では文武両道を目指した学力の向上、部活動の充実のための各種方策を講じております。おかげさまで昨年は

野球部が第96回全国高校野球選手権の北北海道大会で優勝し念願の甲子園初出場を果たし、また中高一貫生を中心に目標としている国公立大学、難関私学への進学者も増えてきているところであります。また専門学校においては、医療保健、介護福祉施設等から即戦力として必要とされる人間的に質の高い社会人の育成に主眼をおき、介護福祉士としての専門性を高める授業の推進を、幼稚園においては、のびのびと遊べる環境づくりに努め、全クラス2人担任体制をとるほか新たな取り組みにも力を注いできております。

また近年は、学校に対する保護者や地域からの期待が高まってきており、私どももその期待に応え信頼される学校づくりを進める必要性を感じています。そのためには各学校においては、学校長を中心に、それぞれの教育目標

に向かってお互いに協力し合い、知恵を出し合いながら、更に地域に愛され信頼される学園を目指し、全教職員が一丸となって取り組んでまいり所存であります。

特に最近では、少子化の影響もあり、大学の閉校、公立高校の統合や間口の調整、私立高校・中学校の募集停止などの学校も出てきております。このような中で、経営の安定化を図るためにも学生・生徒・園児の確保は大きな課題として捉えており、教職員の皆さんが安心してそれぞれの職務に専念できる職場づくりと入学した学生・生徒・園児が安全で安心な環境の中で伸び伸びと学び遊ぶことができる学園づくりに向け、経営改善計画の推進とともに入学生の増加に向けた各種の取り組みを行ってまいります。皆さまにおかれましては、これからも緑ヶ岡学園に対する、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



昨年の50周年式典(右)と記念講演会(左)



武修館中学校 高等学校校長よりご挨拶

武修館高等学校
武修館中学校
学校長 井 上 政 史

◆武修館の人、明日へ

「武修館は私学だからこそできることの宝庫」これが、公立高校で校長を経験した視点からとらえた「武修観」である。

まず、人としての根源を想起させ、力強い生き方メッセージを伝える校訓「愛と奉仕に生きる」。中学生・高校生が日々の生活の中で、口にしやすい、まだ柔らかい若い人の心に快くしみ込む響きがある。

その校訓のもとで展開される教育活動。体育コースの生徒は、はっきりとした意志を持って入学しており、日々の中長期目標が明確で、それに一生懸

命向かってゆく者が多い。普通コースは、将来をじっくりと考えながら、自己を見つめ、自身を成長させ、しだいに目標を明確化していくことができ、無限の可能性がある。これは生徒自身にとって大きな魅力となる。一貫コースは、6年間という長いスパンの中で高校受験へのエネルギー消費なしに進路を設計できるという特色があり、管内ではただ一校の魅力あるコースとなっている。中学校は6年一貫の助走期間としてだけでなく、「人として、生涯の学習期間の中で最も大切な時期」をきめ細かに育てられる環境にあり、管内では異色の存在となっている。などと、まるで「外の人」のような

目線で恐縮だが、3月31日まで非常勤講師、一夜明けて校長という周囲に大迷惑、本人も「顔の交換」に困ったエイプリルフール人事でこの任についた者の「正直な把握」としてお許し願いたい。

武修館の私学ならではの「魅力」と「強み」を述べたが、学校ハンドルを握る者として、もちろん「弱み」も見えているつもりである。舵取りの戦略上、企業秘密相当でもあり、ここでは控えさせていただくが、存在していることは事実である。私と同じく公立高校の校長経験者である馬場副校長との作戦会議の中で強みに転ずる方策を模索しながら教育活動を進めているところである。



中高 野球全校応援

まずは、職員の自己研鑽力強化と精度・確度を一層高めた協働に力を入れたい。それに加えて保護者の皆様のご理解とご協力、学園の皆様、同窓の皆様のご支援に感謝しつつ、さらなるお力添えをお願いしたい。

そして、何よりも主人公、「武修館の人」である生徒諸君の「明日」に向けての挑戦と努力に期待しています。

人体は60兆の細胞1個1個が生きてこそヒトとしての生命活動ができる。学校組織も一人ひとりが生き生きできてこそ成果を出すことができる。学校ハンドルを握りながら、いつも頭においていたい行動イメージである。



中学校 見学旅行(グラム)

釧路短期大学

◆ 木育の可能性（木製遊具のある環境）

子育て支援ゼミ 准教授 塚 本 久仁佳

子育て支援ゼミでは、地域の親子に遊びにきていただき、学生が子どもの保育をおこなっている。保護者は外出することもできるため、「大好きなお母さんと離れていても大丈夫」「おにいさん、おねえさんと遊んでいたい」と思ってもらえるようにしていかなければならない。

そのためには、学生の温かい声かけ、優しい表情、明るく元気な笑顔によって、子どもたちに安心感をもってもらうことが必要不可欠である。しかし、遊びに魅力がなくては、すぐに飽きてしまう。そこで、どのような環境で、どのような遊具が準備されているのかという点も重要なポイントとなってくる。安心できる環境の中、学生たちは、これまで学んできた（はずの）様々な技術を駆使し、楽しい遊びを提供することができるのである。



本ゼミでは、木育を推進していきたいと考えているため、釧路市産業振興部産業推進室と連携し、釧路地域の木材を利用した遊具を開発し、つくっていただいた。木製遊具の良さは誰しも感覚的に理解しているところだと思うが、木で囲まれた環境の方が、そうでない環境よりも乳児が泣かない、というデータもあるようだ。実際、本ゼミにおいて木製遊具を使っていると、普段は新しい環境に慣れず不安を感じるという子どもが、木の家の中で夢中になって遊んでいたりと、木の感触を楽しんだり音を聞くことで落ち着いて過ごしている子どもがいたり、その効果を感じられている。



また、今回開発した遊具は、低構造性のものを主としており、幅広い年齢で遊べ、遊びが広がり、かつ想像力を育んでいけるもの考えた。そのため、毎回の活動の中で、様々な遊びが展開されていることは、学生の学びにもなるだけでなく、保護者の学びにもなっているようである。

遊具は子どもが遊ぶためのものではない。遊具を通して大人も学び、そして、子どもと大人のコミュニケーションのツールとなっている。木製遊具を介したコミュニケーションは、より温かさと笑顔を引き出すことができるようにも感じている。



木育とは、子どもをはじめとするすべての人が木を身近に使っていくことを通じて、人と、木や森とのかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育むことである。今はまだ不十分であるが、今後はさらに木製の遊具を増やしたり、親子でできる体験活動を取り入れるなど、子どもも大人も安心して過ごすことのできる環境を整えていくことが目標である。



生活学科専攻

◆ キャリア教育に力点

生活科学専攻学生が卒業後に就く職業は、事務職・販売職・サービス職・医療事務職・図書館司書そして公務員など実に様々です。進路の多様性が本専攻の特徴の一つですが、それはキャリア教育の重要性をもたらします。

本専攻学生は、全学生対象の就職ガイダンスや就職講演会だけではなく、専攻学生だけを対象とする面接練習・職場見学会などにも参加するとともに、1・2年次の科目「キャリアデザイン」で、就職を含むキャリア形成に向けて多面的な学習・訓練を行います。

「キャリアデザイン」では、キャリア形成に必要な知識の習得をはじめ、職業適性を知り自分の課題を明確化する、就職情報の入手方法に習熟する、

就職試験に向けた準備、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）の養成などを行い、就職への意識向上ならびに就職活動準備を進め、学生たちの希望が実現するよう取り組んでいます。



◆ 地域で学生が動く

生活科学専攻は学習の柱の一つを「地域」とし、地域学習の集大成として1年半にわたって展開する卒業必修科目「地域活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を開設し、学生自身による地域活性化・改善活動の実践を進めています。

この科目は、地域課題の発見→課題改善に用いる地域資源の選択→課題改善等に向けた具体的企画立案→（学外者の協力を得て）企画実行といった流れの活動を、学生集団自身が展開することが主内容です。そもそも何を課題とし、何を使って、どう改善するのか等々をすべて学生集団自身が一から考え、悩み、考え直して、そして外部の方々とは係わりながら、実行します。

これまでの企画は、近隣の小学生を

対象とする地域学習イベント、緑ヶ岡地区マップ作成など、地域情報の学習・提供に焦点を当てていました。今年度は、一歩進めて、住民の相互交流促進を目的とするイベントの実施が検討されています。



◆ 活躍する OG

生活科学科生活科学専攻卒業 能 登 唯 さん
インテリア雑貨セレクトショップ・ピーナッツ店長

お客様を楽しい気持ちに

短大卒業後、多種多彩な雑貨を扱うこの職場に就職して早くも6年が経ちました。

現在は店長として、接客・レジ・品出しに加えて、商品の発注や在庫管理、販売促進のためのPOP作成などを担当しています。さらに、年に数回は東京や札幌に商品の買い付けにも行き、雑貨メーカーや同業者の方々との情報交換も行っています。

雑貨店には、店長としての仕事も含めて、たくさんの種類の仕事がありますが、なかでも店内のディスプレイ（売り場づくり）やPOP作成にはとくにやりがいを感じています。自分が創り上げた売り場で、どれだけのお客様にワクワク楽しい気持ちになっていただけるかがとても楽しみで、商品が売れ

ていくのを実感できたときには、格別の喜び・やりがいを感じます。

短大時代からこの仕事に就こうとしていたわけではありません。雑貨が好きだからと何となく決めた職場です。しかし、たくさんの人々との出会い、様々な経験を積んできた今は、楽しくやりがいのあるこの仕事に誇りを持っています。



食物栄養専攻

生活科学科 食物栄養専攻 臨床栄養学ゼミ

臨床栄養学ゼミは、生活習慣病の中で代表的な糖尿病・高血圧・脂質異常症などの病理の理解に基づく食事療法・献立作成を主体にして活動しています。今年は活動の集大成として2件のコンテストに挑戦しました。

1件目の「病院レシピコンテスト(和乳食)」では乳製品を使用した和風の献立とし、地産地消を心がけました。応募したのは「北の幸いっぱいグラタン」(材料は釧路の代表的なさんまやホタテ貝柱、牛蒡、椎茸、みょうがなど)で、グラタンを味噌味のルーで仕上げたとても食べやすい料理です。これは「金賞」を受賞しました。

2件目の「糖尿病いきいきレシピコ

ンテスト」では、コンセプトが糖尿病のお弁当で総カロリー 500 kcal という設定ですが、栄養バランスに優れ、満足感のある料理を考案しました。こちらは北海道では本学だけが選ばれ、最終審査で東京本戦に参加しました。

学生には充実した1年であり、これを糧に今後も挑戦してほしいと思っています。



教員紹介

生活科学科食物栄養専攻

教授 山崎美枝(スポーツ栄養学)



2020年の東京オリンピックに向け、スポーツ選手をサポートする仕事に興味関心を示す若者が増えています。毎年、本学でも公認スポーツ栄養士を目指したいという学生がおり、私が担当するスポーツ栄養学ゼミに所属し、選手にスポーツ栄養の知識を伝達するだけではなく、選手が日常生活で継続実践できるスポーツ栄養学を目指し活動しています。

私自身は公認スポーツ栄養士を取得したことを機に、日本スケート連盟の強化スタッフに委嘱され、全国有望新人発掘合宿や全日本ジュニア・シニア

合宿において食事管理と栄養指導を担当して6年になります。ソチオリンピックでは選手とスタッフとの信頼関係を重視していたため、私も現地で栄養サポートに従事することができました。これらの貴重な経験は栄養士の養成にも大いに役立っています。

今年度の食物栄養専攻のカリキュラム変更に伴い、「スポーツ栄養学」の講義が新設されました。この講義やゼミ活動を通じ、正しい知識と実践力を備え、選手や指導者、関係者からの信頼も厚く、現場になくてはならない栄養士を育てていきたいと思っています。

活躍するOG

生活科学科食物栄養専攻卒業 山口ななさん

日清医療食品株式会社 管理栄養士



私は釧路短期大学を卒業後、日清医療食品という給食受託会社に採用され市内の病院に勤めています。栄養士として現場や事務仕事をこなし5年目になりますが、管理栄養士の国家試験3回目のチャレンジでめでたく合格することができました。仕事をしながら試験勉強というのは想像以上に大変で、仕事後はもちろん休憩中も参考書とにらみあう日々でした。短大卒業生は3年の栄養士実務経験がなければ受験できず、最初の2年は勉学と離れた生活をしていたため、3年目に受験勉強を始めたときは問題集1ページを解くだけでも嫌になり、仕事との両立に何度も挫折しそうになりました。仕事をしながら1回で合格するには栄養士1年目からコツコツ勉強しなくてはいけないのだと今になって

思います。短大の試験で赤点をとったこともある私でも合格したのですから、これから管理栄養士を目指している方は諦めないで挑戦してほしいと思います。仕事をしながら挑戦するのは大変ですが、3年間の現場での経験は管理栄養士合格後も大いに役立ち、四大卒の管理栄養士になりたての人よりも何倍も早く仕事をこなしていけるので、私は短期大学を卒業してよかったと思っています。現在の仕事内容は今までとかわりなく現場調理、納品、発注、献立作成、食事箋処理が主ですが、管理栄養士免許をとることで、仕事の幅も大きく広がったので、いつか栄養指導ができる施設や病院に勤められたらと思っています。これからも日々勉強し、患者様に美味しく安全な食事を提供できるよう毎日頑張りたいと思います。

幼児教育学科

対外的活動の近況報告とお知らせ

幼児教育学科の2015年の対外的な活動をご紹介します。昨年度ですが、★地域教育研究ゼミの企画に学科学生全員が加わる形で「KJC※ランド～こどものあそびの日～」(※Kushiro Junior Collegeの意)を初開催(1/18)、学生は日頃演習する5グループが、2年生は来場した子どもたちが参加・体験できるステージ企画を、1年生はそれぞれ制作コーナー・作ったもので遊ぶコーナーを設けて、あわせて約300名の親子に楽しんでいただきました。夏、★音楽ゼミがミニオペレッタ「ブレーメンの音楽隊」をMOO・EGGで実施(7/25)。この場で地域教育研究ゼミがポリバケツの太鼓をいくつも使って、リズム遊びを披露しました。また、オペレッタの背景画は今年から開設された「こども造形ゼミ」が作りしました。音楽ゼミは、学園創立50年記念で後援会からいただいたトーンチャイムの演奏も初披露。★音楽ゼミによるトーンチャイム演奏(2曲)は短大後援会総会と保護者懇談会の合間にも行いました(10/17)。

学科教員は、★秋の全国保育士養成協議会の全国セミナー・研究大会(北

海道ブロック協議会担当・札幌開催)で企画委員・実行委員として尽力したほか、専任教員7名が全員参加し、幼児教育学科として10年来の保育現場と連携して試行錯誤した実習指導にかかわる授業研究(4本:「授業発展型の地域活動」a 模擬授業から実践、b ゼミ活動としての子ども向けイベント開催、「五領域を意識したグループ演習の試み」、c 幼稚園での実践、d 地域の子どもたちを対象に)をポスター発表しました(9/23)。

以上と異なり、毎週のゼミ活動として、★子育て支援ゼミが308合同講義室にマットを敷き詰めて、多くの親子にご来場いただき、15～17時に活動中です。詳しくは本学ホームページ「子育て支援ゼミのブログ」をご覧ください。

なお、年明けには、◆KJCランドの第2回目を、学科1・2年生の学習成果の公開も兼ねて予定しており(1/17・短大校舎)、また、小規模ですが、◆1/24には芸術館アートホールで音楽ゼミの「小さなオペレッタ」& トーンチャイム演奏を予定しています。



活躍するOG

幼児教育学科卒業 加納麻衣さん

鹿浜イングリッシュアドベンチャーズ 勤務



私は短大を卒業後、元々興味を持っていた英語を学びたいと思いオーストラリアへの留学を決意しました。オーストラリアで英語を学んで行くうちに、短大で学んだ幼児教育と英語を一緒に活かせる仕事がしたいと思い留学中に児童英語教師の資格を取得しました。

この資格を取得するまでは小さい子どもへの英語の教授法を学んだり、たくさん実技をしたり、実際にオーストラリアの幼稚園で実習をしたりと全てが身になることばかりでした。私が実習した幼稚園は多国籍でオーストラリアの子はもちろん、韓国や中国、ヨーロッパの子などがいました。そんな

色々な国の子ども達と関わる中で、子どもはどこの国の子でも笑顔が可愛くてみんな平等なのだと実感しました。

日本に帰国してから東京のインターナショナルスクールに就職し、5ヶ月がたちます。スクールでは会話は全て英語で行われ、私はアメリカ人の先生と一緒に4、5歳のクラスを受け持っています。クラスでは英語の授業があり、アルファベットの書き方の練習や発音の練習、単語の勉強など年齢に合った勉強をしています。まだまだ慣れないことばかりですが子ども達と笑顔で楽しく過ごして行きたいと思っています。

武修館高等学校

◆ “感動を掴め” 陸上競技部

5月20日～22日に釧路市民陸上競技場で行われました「第68回 北海道高等学校 陸上競技選手権大会 釧路支部予選会」に出場し、男子400mと女子走高跳の2種目で優勝、他11種目で入賞し、12名が全道大会に出場しました。

6月16日～19日に札幌市厚別公園陸上競技場で行われた「第68回 北海道高等学校 陸上競技選手権大会」では女子走高跳に出場した金丸妃菜(1体)が1m58cmの記録で5位入賞を果たし、「風になれ 今青春が走り出す 2015 君が創る近畿総体(全国高等学校総合体育大会)【インターハイ】」に出場することができました。

7月29日～8月2日に和歌山県紀三井寺公園陸上競技場で行われたインターハイでは、残念ながら予選落ちという結果でした。ですが、トップ選手との体力差やスキル差を感じ、多くの

課題を持ちかえることができました。1年生としては堂々とした態度で試合に臨んでいる姿が印象的で、今後の活躍が非常に期待できます。

8月29日～30日には新人戦釧路支部予選があり、6種目での優勝、他8種目で入賞し、11名が新人戦全道大会に出場しました。

秋は新人戦を最大目標に掲げ、夏に強化練習を行ってきました。選手の努力は確かな結果として表れてきたと感じる夏でした。

その新人戦全道大会は室蘭市で9月23日～25日に行われ、女子走高跳で優勝、他2種目で入賞を果たすことができました。一步一步で、決して大きな歩みではありませんが、確実にトップとの差を縮めていると感じています。

2015年シーズンを振り返ると陸上競技部は、昨年に続きインターハイに



出場することができました。日本全国の高校生アスリートがこのインターハイを目標に日々、過酷なトレーニングをしていると思いますが、その舞台に2年連続で「武修館」の選手が出場できるということは非常に嬉しいことで

す。ですが、目標は常に上がっていかなければならないものだと考えています。インターハイに出場するだけでなく、あの舞台での優勝、入賞を目標に掲げ、今後活動していきたいと考えています。

◆ 箏曲部、全道大会最優秀賞受賞！！ 全国大会へ！！

箏曲部は、9月17、18日北見市で行われた全道高等学校音楽発表大会に出場し、日本音楽部門で最優秀賞を受賞した。来年8月、広島県で行われる全国高等学校総合文化祭に出場する。

箏曲部は、平成22年に宮崎県で行われた全国高等学校総合文化祭に出場して以来、2度目の出場となる。現在、部員は2年生5名、1年生2名と少ない人数で、全員が一貫コース生である。一貫コースは平日7時間授業、課外講習と練習の時間を確保することが難しい。しかし、週2回2時間程度の練習時間を大切に、集中して練習を重ねてきた。ここ数年、全道大会では優良賞が続き、今年こそは最優秀賞をと臨んだ大会だった。引退した3年生の想いも音にのせて“心をひとつに”演奏することができた。今大会の成績発表では、優良賞がなく、優秀賞が2校、

最優秀賞が1校であると発表され、優秀賞2校が先に発表された。そこで学校名を呼ばれることはなかった。最後に最優秀賞が発表され「武修館高等学校」と呼ばれた瞬間、生徒たちの目は涙でいっぱいになった。

全国高等学校総合文化祭は来年8月。部員7名に来年入部する1年生を加えて、大会に臨む。心がひとつになれば、音もひとつになる。全国の大舞台で“心をひとつに”演奏する。



◆ 全国選抜大会準優勝！！ アイスホッケー部

8月4日～9日まで苫小牧市で開催された第10回全国高等学校選抜アイスホッケー大会において、第2回大会以来8年振りとなる決勝進出を果たした。決勝戦では宿敵・白樺学園に2-3と惜敗し、初優勝は逃したものの、冬のインターハイに向けて好スタートを切ることができた。今シーズンは“TAKE ACTION ～自主・自立・自律～”をスローガンに掲げ、いかなる時も自らの意志で行動し、自立した人間(選手)の育成を目指し活動している。また、昨年までの成績を超える為、今年は練習方法も一新し、他の学校とは一線を画す新たな練習スタイルで悲願の全国制覇を目指している。定期的に行なうミーティングではアイスホッケーに限らず、あらゆる競技から

アスリートに必要な資質を学び取り、陸上トレーニングやウエイトトレーニングでは水上での動きにリンクしたメニューをこなすことで、目的意識や練習効率を上げていくことを意識している。未だ武修館高校に改名してからの全国制覇は達成されていないが、今年の武修館はどのチームよりもアグレッシブで攻撃的なホッケーを展開し、必ず全国制覇の壁を打ち破ってみせる。



◆ 活躍する卒業生 普通コース

株式会社M 勤務 蓮見玲奈さん

私は毎日楽しく充実した高校生活を送ることができました。これは、仲間に恵まれ、先生方にいつも励ましていただいたからだと思っています。学校が大好きで、アルバイトがない日はいつも学校に残っていました。テスト前に先生方にわかるまで何度も問題の解き方を聞いたり、解説をしてもらったりしました。そういう場面を通じ、多くの先生と親しくなることができました。武修館高校では、挨拶や礼儀など社会に出て必要なさまざまなことを教えていただき

ました。3年生になり、面接練習を本格的に始めるまでなかなか気づきませんでしたが、武修館のいつもどおりは、社会人としての当たり前のことなんだと非常に強く感じています。

春から希望していたエステティシャンとして勤務しています。お客さんと接する時間は楽しく、先輩方にも恵まれ、充実した毎日を送っています。閉店後は、居残りでエステの勉強や手法を勉強しています。大変ですが、武修館の卒業生として胸を張って、頑張っていきたいと思います。



◆ 活躍する卒業生 体育コース

石狩市消防 勤務 千葉祐也さん

私が高校生活で学んだことは、挨拶の大切さです。武修館高校では常に挨拶をしっかりとるように指導されてきました。最初は挨拶をしろと言われたからする人もいると思います。ですが挨拶をされると気持ちが良かったり、元気をもらえたりすることがあり、自分から挨拶をするようになります。それは一生続けるべき習慣だと思います。

どれほど勉強やスポーツが出来たとしても、挨拶ひとつ出来ないだけでその人の周りからの評価が下がってしまいます。社会に出ると、挨拶は基本中の基本となります。初めて会う相手に対して与える自分の印象の大半が挨拶で決まります。良い印象を与えられる挨拶ができるよう、今のうちから習慣付けましょう。

私は今、石狩消防署で消防士として

働いています。日頃からあらゆる災害に備えて様々な訓練を行なっています。高校1年生の時から消防士になると決めて、部活の野球だけを頑張るのではなく、消防士になるための試験に向けて勉強も頑張っていました。周りからは無理だとか厳しいだとか言われることもありましたが、ですがそこで諦めてはならないものにもしたいこともできません。みなさんも様々な夢があると思います。その夢を言葉に出して、目標に変えて、それに向かって努力してください。それが必ず自分のためになります。結果的に自分は、目標としてきた甲子園出場と消防士になるという夢を叶えることができました。どちらもしっかり言葉にできたことです。みなさんも夢を叶えることができるように武修館で悔いのない高校生活を過ごしてください。

中高一貫

◆ 漢字検定準一級への道

本校一貫コース1年の平村美瑛君は昨年度漢字検定の準一級を取得しました。二級ですら高校卒業程度の難易度であるにもかかわらず、それを超える準一級を取得することは、並大抵の努力で成し得ることではありません。

そして喜ばしいのは、平村君に続こうと努力を始める後輩が現れたことです。

本稿ではそんな二人の言葉を掲載します。



平村 美瑛君

Q 合格がわかったときの気持ちを教えてください。

漢検学習の開始から足かけ1年半、文字通り3度目の正直であり、ほっとしました。

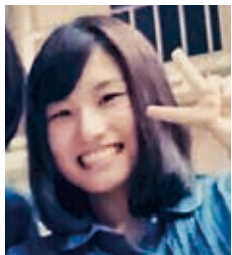
Q どうして漢検準一級を取得しようと思ったのですか？

漢検二級に合格したからです。はじめはただそれだけでした。実は、漢字はあまり好きではなかったのです。

ところが、準一級の勉強に入ってから、音や文字の形の美しさを感じるようになり、漢字の面白さを知りました。

Q 取得に向け、どのような努力をしましたか？

授業間の10分休みなど、暇さえあれば問題集を解いていました。半端のものを含めると5冊ほど解きました。勉強するうちに漢字にどんどん惹きこまれていくから不思議です。



◆ 活躍する卒業生 一貫コース

津田塾大学 学芸学部英文科 山田 沙耶さん

津田塾大学に入学して半年が経ちました。入学当初は、周りとの学力の差に悩み、授業についていくのも大変でした。ですが、私は入りたかった大学に合格することができた、という誇りをもっていたので、必死で勉強しました。今も毎日大量の課題に追われていますが、英語力も全く落ちず、新しく学ぶことが多く、楽しいです。女子大ということもあり、ジェンダーに関する授業が多く、とても難しい問題ですが、自分なりの考えをもてたことも、大きな成長だと思っています。勉強も授業も厳しく、とても大変ですが、毎日充実し

Q 後輩である土手君の印象と、彼に向けて激励の言葉をお願いします。

土手君は笑顔がよくて、勤勉な人です。日常の学習に疲れたとき、気楽に漢字の勉強をしてほしいと思います。



土手 佑太君

Q どうして漢検準一級を取得しようと思ったのですか？

大学で使える級を取得するということは将来の自分の糧となりますし、自分の挑戦をここで終わらせたくないと思ったからです。

Q 取得に向け、どのような努力をしていますか？

準一級の漢字は見たことのあるものが少ないので、ノートへの書き取りなど、準一級の漢字を「解く」のではなく、「親しむ」努力をしています。

Q 平村先輩の印象を教えてください。

後輩にも優しく、素晴らしい先輩です。特に凄いと感ずる点は、時間の使い方です。登下校のバスなど、空き時間にも学習をしていらっしゃいます。準一級を取得した先輩として、とても尊敬しています。

Q 漢検準一級への抱負をお願いします。

難易度は高いですが、中学校在学中に合格したいので、今まで以上の努力をしたいと思っています。

武修館中学校

◆ 見学旅行

本校中学2年生は、9月に見学旅行としてグアムに行きました。実行委員長として活躍してくれた勝田陽子さんの言葉を掲載します。

見学旅行について



勝田 陽子さん

グアムの空港から出ると、すぐに「外国」だと実感しました。

今まで体験したことのない熱気と湿気。本当に来たんだと感動しました。

グアムに着いて少しビクビクしながら現地の人に英語で話しかけると、二

コニコしながら英語で返してくれました。私の英語は本当に使えるのかと不安だったので想像以上の喜びが込み上げてきて、とても嬉しかったです。今まで頭の中だけで存在していた「外国」という世界が目の前に広がっていて、それを自分の体で感じる事ができ、アメリカンサイズの食べ物や、英語の文章などの、新しい発見が次々に見つかる。こんなに楽しいことはありません。

しかし、自分と相手に話が噛み合わず、イライラさせてしまい、悔しい思いをしたことが何回もありました。硬貨の区別がつかず、レジ前で慌ててしまい、困らせてしまうこともありましたが、そのような失敗も全て含め、充実した体験ができたことを誇らしく思っています。

◆ 英語暗唱大会

10月18日に釧路市英語暗唱大会が行われました。本校からは3名が参加し、3年古屋真有さんは3位に入賞しました。本稿では古屋さんの言葉を掲載します。

英語暗唱大会について

3年A組 古屋 真有さん

英語の暗唱において重要なのは発音だけではないと思います。表現力や声の大きさ、もちろん暗記力も必要です。どれもこれからの将来、絶対に必要な力であると思います。

英語はグローバル化が進んできた現在、どんどん必要性が増していくものだと思いますが、ただ話せばよいというものではなく、相手に伝わらなければ意味がありません。その点において発音、表現力などを磨くことのできる英語暗唱は最適な練習法であると思います。

英語暗唱大会でよい結果を残すことができれば、それだけ自分の自信になりますし、思うような結果が残せなかったときは、悔しさとともに自分の改善すべき点を改めて考えることができます。ですから英語暗唱は自分を見つめ直し大きく成長できるチャンスであると思います。

私は英語が自分の人生において必要なものだと思いますし、英語が大好きです。ですから、これからたくさん努力をして、どんどん英語力を磨いていきたいと思っています。



◆ 第十期生徒会

平成27年度後期から第十期生徒会が発足しました。生徒会長に就任した舟木章太君の言葉を掲載します。

生徒会長として

中学2年 舟木 章太君

この度、第十期生徒会会長に就任した舟木章太です。私は昨年、第九期生徒会会計を務めさせていただきました。入学したばかりで不安や緊張もありましたが、生徒会の先生方、先輩方や周りの方に励ましていただき、無事仕事をやり遂げることができました。そして、次は自分が新生徒会を引っ張る番だと決意し、生徒会会長に立候補しました。

現在の新生徒会役員は、昨年と比べて一年生が多いです。新生徒会役員は

大変積極的で、真面目な人が多いと思います。今後の生徒会活動を通じて、新生徒会役員が生徒の良い見本になることを大いに期待しています。また、私自身も生徒会長として、私の公約である「生徒の声を尊重し、生徒の目線で考えられる生徒会」を実現するよう努力していきます。そして、生徒、生徒会役員、先生方と協力して生徒会活動を進めることを目指します。

一生懸命がんばりたいと思いますので、みなさんよろしく願います。



釧路短期大学附属幼稚園

◆これぞ『ふぞく』の特色です!!

当園では10月に『ふぞくこども祭(=お店屋さんごっこ)』という行事が行われます。この行事、8月の『ふぞく祭(=バザー)』の子ども達版です。お母さん方の売り手姿をよく見ていた子ども達は、「いらっしゃいませ!」「おいしいですよ~」「この遊びは10円ですよ」とそれは、それは上手に、またとても嬉しそうに売り手をしています。子ども達って、「本当にごっこ遊びが大好きだなあ~」とその姿を見てると毎年感じます。ただ、この行事の日は、開放日ということもあって外部の方が大勢参加します。部屋の様子もいつもと違うので、「・・・」と戸惑う子ども達も見られます。楽しみにしている反面、若干不安もあるのです。

そんな子ども達を陰で支えてくれているのが、自主的に参加してくれている短大の幼教の1年生です。困っている子ども達に「○○したらいいよ」と助言をしてくれる学生達のおかげで、より安心して楽しい時間を過ごせるのです。子ども達にとって良い結果が得られるだけでなく、現場を体験できるという意味で、学生達にも大変メリットがあります。



◆ ~附属幼稚園カンガルークラブの紹介~

カンガルークラブ(満2歳児・2歳児・3歳児)平成27年度の入会児は、*週5コース2名 *週3コース11名 *週2コース10名の計23名です。途中で年少に満3歳で2名入園しています。今年度で、4年目になるカンガルークラブですが、登園後は、園児と一緒に遊んだり、運動会やお遊戯会その他の行事にも参加しています。絵本や紙芝居が大好きなカンガルークラブです。一日の流れは、園児と同じになりますが、降園時間は1時になります。お母さんから離れる初めの一步を安心して楽しく過ごす事が出来る事を大切にしています。最近では、お友達と

手を繋ぎ上手にお散歩に行ける様になりました。途中で疲れても最後まで歩き回らないで歩ける強い心も育ちました。お友達に優しくする心も育ちました。これからの行事では、11月15日にお遊戯会がありますが、運動会と同じように楽しみながら参加出来れば良いと思っています。



◆ 年少組クラス紹介

平成27年度のふぞく幼稚園年少組は、3歳児20名、満3歳児5名、計25名在籍しています。入園当初は初めての集団生活に戸惑い、母親から離れる寂しさを感じ泣いてしまう子もいました。しかし、日々の園生活の中で保育者や友達と関わる事を楽しみ、今では元気に登園し自分達で好きな遊びを見つけている様子が沢山見られます。友達が泣いていると先生を呼びに行ったり、泣いている子の頭をなでてあげる優しい姿も見られます。今は11月に行われるお遊戯会へ向けての練習が始まりました。踊ることが大好きな子ども達は、自分の担当以外の曲も一緒に踊って楽しんでいます。自由遊びでは、戦いごっこやビーズ探し、砂場でケーキを作ったり、ブランコに乗ったりす

ることを楽しんでいます。室内では粘土遊びやお家ごっこ、遊戯室にあるドレスを着て遊ぶことが大好きです。戸外は寒くなってきましたが、寒さに負けず元気な声を響かせて元気に遊んでいる子ども達です。



◆ 年中組クラス紹介

平成27年度のふぞく幼稚園年中組(4歳児)は、現在23名在籍しています。前年からの進級児16名、新入園児7名でのスタートでした。日々の保育・運動会等の行事の取り組みを通して集団性が高まり、クラスとしての一体感がどんどん強くなっている2学期です。最近では11月中旬のお遊戯会へ向け、楽器演奏とお遊戯練習を楽しみながら取り組んでいます。子ども達はこの半年で大きく成長し、日々の保育の中で素敵な姿を沢山

見せています。「何かを上手に出来るようになる」ことも、もちろん大切なことですが、それ以上に、自分をしっかり表現できることやお友達と協力(協調)したり優しくできること・苦手なことにもチャレンジする等、内面的な成長が素晴らしいです。自由遊びでは、鬼ごっこ・警察ごっこ・転がしドッジボール・ビーズ探し等をいつも楽しんでいます。戸外遊びが大好きな子ども達は毎日元気いっぱい遊んでいますよ。



◆ 年長クラス紹介

年長組(5歳児きりん組)は28名在籍しています。幼稚園の一番のお兄さん・お姉さんとして、小さなクラスのお友達にとっても優しいきりんさんです。1学期は、運動会でリレーやヨサコイ・縄跳びに挑戦し、苦手なことも諦めずに頑張りました。そして、幼稚園でのお泊り会では、家族と離れながらも楽しく過ごし、みんなで協力し合うことを経験してまたひとつ大きくなりました。2学期も、芋掘り遠足、ノロッコ号、わかくさ保育園とのサッ

カー交流会など、年長児ならではの行事を楽しんでいます。集団としてのまとまりができて、相手のことを考えたり、色々なことにチャレンジしたりと、体も心も強くなったきりんさんですが、そこには、小さい頃からの積み重ね・日々の積み重ねがあるからこそだと感じています。今年度で卒園ですが、残りの日々も色々な経験をして、一日一日を大切に、たくさんの思い出をクラス全員で作っていきたいです。



◆ 子ども・子育て支援新制度開始

平成27年から、子ども・子育て支援制度が開始となりました。この制度は大変複雑なので、開始された今でもなかなか浸透していませんし、残念ながら誤解も多くあります。改めてこの制度の最大のポイントは何かというと、『税金を子ども達に使う』という点なのです。少子化対策・待機児童対策・過疎地区の幼児教育の維持といった日本全体が抱えている、今後抱えるであろう大きな課題に対応していこうとしています。と同時に、仕事の多さや責任感の重

さの割に待遇が良くないことで、保育士離れが起きている問題の改善もしようとしています。「釧路のような待機児童がいない地区には関係の無い制度ではないか」という声を未だに多く聞きますが、実は少子化が進む街で、今後も質の高い幼児教育を提供し続けていくことの重要性も踏まえている制度でもあるのです。更にこの制度は、地域ごとに特色を出していける制度でもあり、地方自治体と現場が今まで以上に連携を密にすることで、各地域が抱えている幼児教育の課題や保育の問題等にも対応していくものなのです。

専門学校釧路ケアカレッジ

◆ グリンパークつるいで学生自治会行事

秋も収まる9月25日（金）に、学生41名全員にて自治会行事を行いました。今年度の行先は、グリーンパークつるい。送迎バスにて移動、現地では学年の垣根をこえて、温泉やカラオ

ケ、テニス等で汗を流し、その後も、和気あいあい、焼き肉を楽しみました。ただ招かれざる客が…。“蜂”(@_@)怖かったですね。



◆ 釧路市民北海盆踊りへの参加

秋も近づく8月19日（水）に、学生20名と教職員が釧路市民北海盆踊りへの参加をしました。

この参加は、北海道私立専修学校各種学校連合会道東支部合同行事で、市内5校の専門学校で50名程が参加。本校からも熱いハートのお祭り男と

女？が参加。校長から激励の言葉を頂き、いざ集合場所へ。しかし、この日は生憎の雨。開始20分ほどで終了となりました。参加学生は、雨と寒さで…。

ご苦労さまでした。



◆ 認知症って…

「認知症」ってどんな病気か知っていますか？

認知症は基本的に脳が様々な理由で異常をきたし、起こる記憶障害を主とする病気です。

記憶の他にも、思考や判断能力の低下、人間関係の認識や時間や地理的関係の認識（見当識）もできなくなる場合もあります。重要なのは、その症状が原因で社会生活や日常生活に支障がでた場合、本人や家族の方にかかる負担が大きなものになるという事。

家族が認知症を発症した場合、どう関わったら良いのか？「認知症」の原因と特徴にふれながら、考えてみましょう。認知症の原因疾患の数は何と70種類にも及びます。

もっとも多いのが「アルツハイマー型認知症」、次いで「脳血管性認知症」、「レビー小体型認知症」。この3種類で全体の約9割を占め「3大認知症」とも言われています。

今回は「アルツハイマー型認知症」についてお話しします。

アルツハイマー型認知症は、脳全体が萎縮する疾患で、原因はまだ明らかにされていません。

女性に多く見られ、初期の段階では麻痺もなく、進行するのが特徴です。主な症状は、記憶障害や判断能力の低下、見当識障害も現れます。では、そんな時、どうすれば良いのでしょうか？そのような状態になった自分を考えると自然に答えがでます。

基本は、①繰り返し聞かれることに怒らない。②長い文章での会話はしない。③相手がわかる言葉を使う。④否定をしない。そして何より⑤安心してできるような言葉をかける。

認知症の方は、記憶障害から不安の中にいます。不安を膨らませるようなことは絶対に避ける。

これが、アルツハイマー型認知症への関わり方の基本です。多少の失敗には目をつぶり、心に余裕をもって関わってみてはどうでしょう。

◆ 夢と誇りの職業

専門学校釧路ケアカレッジ 校長 山田清典

この数年、介護を必要とされている方の増加は、日本の抱える大きな問題として議論されています。国や自治体もこの問題に真剣に取り組んでおり、施設の開設や増床の認可など、ダイナミックな政策を進めているところです。

一方、介護する方の養成は、なかなか進んでいません。人の育成は、技術だけでなく、介護する心の醸成に時間が必要だからです。実際、介護施設では慢性的に介護福祉士の不足に悩まされています。

専門学校釧路ケアカレッジは、この介護福祉士を養成する学校です。学生の多くは身近にお年寄りがいたり、介護施設でのボランティア経験があり、プロの介護福祉士を目指す志は高く、実に真面目で、優しい気持ちを持っています。

しかし、いざ本校に入学してくると、専門性の高い学習内容につまづくことも少なくありません。さらに、実習では、現場でのコミュニケーションのとり方に戸惑い、自信を失うこともあります。



◆ 利用者様とともに歩む介護

社会福祉法人 釧路孝仁会 特別養護老人ホーム

きんれんかの里 勤務 工藤可奈さん

私は、専門学校卒業後、小規模多機能型グループホームにて約4年半勤務し、その後認知症対応型グループホームへ異動、約1年勤め、現在の職場である特別養護老人ホームで生活相談員として勤務しています。また、その合間に介護教室の講師としても経験をさせて頂いています。介護職も相談職も両方経験し、それぞれの難しさや厳しさに辛い思いもしてきましたが、それ以上に介護の楽しさや面白さを感じ、日々勤務をしている所です。

後輩の皆さんも介護という道にすすみ

本校では、「笑顔で挨拶」「他人に気配り」「心から感謝」を介護の基本理念として教育しています。このような学生も、施設での管理職経験豊富な教員の指導の下、一年もすると逞しい介護福祉士の卵になっていきます。この若い学生が明日の釧路の介護を担っていくのです。

以前、介護職員の処遇の悪さがマスコミで頻繁に報道されました。そのことが介護職員への志望が少ない一因となっています。しかし、実際には、現在の不況の中では給与面でも他の業種と大きな差はありませんし、多くの施設で正規職員として採用されています。介護の仕事は、利用者様や家族から心から感謝され、必要とされる人間として、夢と誇りのある職業なのです。

また、最近では「医療的ケア」の導入や「地域包括ケア」による他職種との連携が必要となっており、ますます介護福祉士の業務の拡張や可能性が高まっています。

是非、多くの若い方が介護福祉士を目指していただきたいと思います。

沢山の経験をされるかと思います。その中では辛く苦しい事や、もう介護を辞めたいという気持ちになる時もあるかもしれませんが、どうかすぐに辞める、という選択ではなく、なにをどうすれば今後の介護職としての自分にプラスになるか、そのためにはどうしていけばいいか、どうすれば利用者様にとって最良なのかを常に考え実行していける向上心を持って頂ければと思います。

後輩の皆さんがすすむ介護という道に幸多い事を願っております。



◆ 介護の難しさと楽しさ

グループホーム まこと 勤務 川上由香さん

私は、高校を卒業して、介護施設に勤め、6年になりました。去年、ケアマネジャーの資格を取得し、施設でケアプランを作成しています。

就職して2年目の時に、働きながら釧路ケアカレッジ専門学校へ通わせてもらい、大変ながらもとても有意義な2年間でした。しかし、教科書で学んだ事をすぐ活かそうとした私を感じた事は『教科書どおりにはいかない』という事でした。声かけ一つをとっても、距離や姿勢、表情、声色等を相手の心地の良い所を普段の関わりから常に探していく事が必

要です。教科書で学んだ事を軸として、そこから選択肢を増やし、自分で選択していく事はとても難しいです。相手が「人」なので正解も一人ひとり違います。それでも仕事が続いてきたのは、利用者さんや職員さんと楽しく支え合う事が出来たからだと思います。そしてその様な関係を築けたのは学校での学びや実習の経験があったからです。在学中や卒業後はそれに気付けずにいましたが、ケアマネとなり、利用者さん、家族の方、職員と関わる事が増え、実感しています。

これからも基礎を忘れることなく、人とおしの関わりを大事にして、励んでいきたいです。

釧路短期大学附属図書館

地域住民への貸出、初の1,000冊突破
— 地域開放30年 —

あゆみ

昭和61年（1986年）に地域開放を開始して、平成27年度で30年の歴史を積み重ねてきました。当時としては先駆的で画期的なこと。附属図書館長として6代目にあたる米坂英範先生の情熱によるものです。

当時の『釧路新聞』には「地域に開く釧路短大」「図書館を学外開放」という記事見出しで掲載されました。

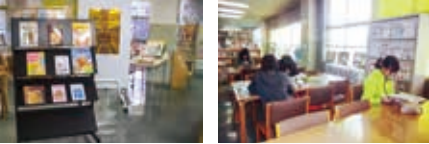
当時の理事長（第4代）である故・小船井武次郎名誉理事長のご厚意により平成2年（1990年）から、釧路・根室管内の石炭・港湾関係をはじめとす



る、地域資料の収集に着手開始しました。

平成12年（2000年）には、絵本とおはなしの部屋「でんでん」を設置。図書館司書、保育士、幼稚園教諭を養成している短期大学としての特色を深め、やや停滞していた利用者が増えていくきっかけとなりました。

平成24年度には、学外の利用者への貸出冊数が1,000冊を越えるまでに、釧路短期大学の卒業生はもちろんのこと、市民の方々にも徐々に図書館の地域開放が浸透して、この30年目を迎えることができました。



「知の形成シリーズ・生活の中の教養」出版開始
— 『はじめて読む新約聖書』 —

テキスト

読書推進、資料の有効活用を目的として平成18年（2006年）、「原典を読む」講座が新たに開始されました。以来、今日に続いています。

『はじめて読む新約聖書』は、平成24年・25年に行われた「原典を読む」講座、合計3回の内容を、一冊のテキストとしてまとめたものです。

公開講座で講師としてお招きした日本基督教団釧路春採教会・田村毅朗牧師（現在は日本基督教団東村山教会牧師）に、ご協力をお願い致しました。

学園創立50周年記念の年に出版をと、編集作業を進め、建学の精神「愛と奉仕」の趣旨についても掲載してい

ます。

執筆者の田村先生をはじめとして、扉の写真提供、聖書引用についての許諾、表紙デザイン等、さまざまな方面からご協力を得て、完成に至ることができました。公開講座の受講者や図書館利用者の方々にも配布して、大変喜ばれています。

「知の形成シリーズ・生活の中の教養」の出版は、図書館としてこれからも継続して取り組んでいく方向で、現在も計画中です。



「読むこと」と「書くこと」を支援します
— 図書館のライティング支援 —

読書の成果

文部科学省の平成26年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」タイプ2「地域発展」の申請・決定により、図書館内の充実を図ることができました。

「読んだ」ことの蓄積、「書いた」ことの蓄積、「読んだこと」・「書いたこと」を利用者同士で共有し地域に発信することを、図書館が支援する試みです。

学生や教職員、市民の利用者が読書情報や地域情報の蓄積を、継続的に

うことのできる場所を提供することも、念頭に置いています。

図書館利用者のライティング支援を進めていくための利用者用タブレットパソコンを導入、閲覧室奥にライティング支援スペースとして、小グループによる学習コーナーを整備しました。その他、いくつかの備品の配置により、図書館の利便性の向上を図ることができました。平成27年度は佐藤宥紹図書館長が、市民を対象として「自分史講座」（全8回）を開講しています。



釧路短期大学生涯教育センター

エクステンションツアー
湿地を緑野に、酪農郷ツアー・尾幌川紀行

道東文化塾2015

恒例のエクステンションツアーで、厚岸郡を訪問しました。尾幌川は、同郡西北から尾幌原野を経て、別寒辺牛川にそそぐ河川です。明治32年（1899年）に開拓がはじまり、流域の栄養豊かな堆積土とやせた泥炭地を対象に、酪農郷が開かれました。

上流の上尾幌地区は、大正6年（1917年）の鉄道開業で発展した集落です。炭鉱と国有林で働く5,000人超の人口で、にぎわいました。中流の尾幌地区は、畑作・馬産・冬の木材輸送を経て、酪農郷に発展しました。開拓の中心となった、村林謙吉翁の顕彰碑「村林君紀功碑」を訪ね、漢文調碑文の解説に挑戦してもらっています。またそこがこの地ならではの。明治40年（1907年）に開削された<尾幌川分水>を踏査しました。今も残るキタヨシの泥炭地を横目に、分水の取り付け道を歩いても

りました。分水が開かれて洪水はなくなりました。しかし厚岸湾漁業に影響をあたえ、過去には漁業資源問題が発生、現在は<家畜し尿>が流れ込んでいるなどの、報告も示されました。

最後は尾幌酪農ふれあい館で、牛乳料理の実習を、栄養士さんをお願いしました。題して、「祖母の味、継承も公的教育機会で」。実習は好評でした。「体験学習できて良かった」と、参加者の事業評価をいただきました。酪農郷の今にぐわえ、地域がかかえている課題についても、考察することができたのです。



出前授業『前田正名』

高校と連携

釧路再発見セミナーの趣旨で、出前授業『前田正名』を開設中です。授業は、北海道釧路北陽高等学校と共同開発しています。平成25年度から3年間継続してきました。

前田正名は、明治国家建設期に政府官員で活躍。阿寒湖畔の自然保護に取り組みました。道内初の紙パルプ業を開いています。北陽高校は「釧路の地誌」授業で前田正名を2コマ、時間枠をもうけています。本学は釧路再発見セミナーを釧路商工会議所と、共同開発してきました。北陽高校もこれに参加したことで、基盤ができました。

本学の生活科学専攻で、卒業選択科目に「地域と資料」を開設しています。8回にわたり前田関係資料を読み続

け、その一部が高校授業の中でも紹介されるのです。

高校でご担当の先生は、「短大の授業で難解な面もあるが生徒はついていく」と評してくださっています。聞いた生徒さんも、「知らなかったことがたくさん」。毎回、感想をもらっています。高校と短大の結節に資すると考え、取り組んでいます。



編集後記

緑ヶ岡学園の現在をお伝えする学園報も、第4号から全面カラー印刷となりました。園児・生徒・学生のみなさんの生き生きとした日々様子を、紙面から感じていただけましたら幸いです。

加えて、卒業生の方々から寄せられた活躍の報告は、教職員一同、大変うれしく感謝しています。

本学園での学びの月日が、子どもたちや若者の明るい未来につながっていきますよう、熱い思いを共有する組織でありたいと役員・教職員一同で願っています。

編集委員

斎藤 修（事務局）

田澤 央（短大）

辻堂 雅之（高校）

杉澤 康太（中学）

下地 秀人（専門学校）

山口 貴広（幼稚園）

渡辺 泰代（図書館）